

科目名	臨床工学特論 I ①			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年 通年
【授業の目的・ねらい】 電気工学・電子工学・情報や生体物性や治療機器、安全管理などといった教科で学んだことを複合的に活用し、問題解決能力を養う。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 電気電子工学や情報をより深く理解し臨床現場で活かせる知識・技術を身につける事を目的とし、理解を深めていく。また、クラス内で逐次、お互いの知識・技術を共有していく事でさらに理解を深めていく。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・臨床と工学を深く関連付けることが出来る。 ・国家試験過去問において苦手な分野を把握し、その箇所について自分の言葉で説明できるようになる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	国家試験過去問演習 ①						
2	国家試験過去問演習 ①解説						
3	国家試験過去問演習 ②						
4	国家試験過去問演習 ②解説						
5	国家試験過去問演習 ③						
6	国家試験過去問演習 ③解説						
7	国家試験過去問演習 ④						
8	国家試験過去問演習 ④解説						
9	国家試験過去問演習 ⑤						
10	国家試験過去問演習 ⑤解説						
11	国家試験過去問演習 ⑥						
12	国家試験過去問演習 ⑥解説						
13	国家試験過去問演習 ⑦						
14	国家試験過去問演習 ⑦解説						
15	国家試験過去問演習 ⑧・中間試験						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章 ほか、金原出版株式会社 ・臨床工学講座 医用電気工学 第2版、戸畑裕志 ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学講座 医用電子工学 第2版、中島章夫 ほか、医歯薬出版株式会社							
【準備学習・時間外学習】 ・国家試験過去問に臨むにあたり、現在までの学びを総合的に復習しておくこと ・国家試験過去問で間違った箇所に関しては、教科書・教材・参考書をもとに復習し自らの言葉で説明できるようにしておく							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 中間テストを50点、定期試験を50点とし合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							